



令和8年度
Vol.2

グリーンメール

鳴門藍住農業支援センターだより



「全国れんこんサミットin徳島」が開催されました！

令和8年7月28・29日（火・水）の2日間にわたり、本県れんこん産地の更なる活性化を図るため、「全国れんこんサミットin徳島」が開催され、県内の生産者をはじめとした全国の関係者ら約270名が参加しました。

28日の徳島グランヴィリオホテルでのフォーラムは、「JAあいち海部」の加藤氏による事例報告に加え、基調講演として「農研機構」の益子氏より、「カモ類等によるれんこん食害対策の研究」について御講演いただき知識の向上が図られました。

パネルディスカッションは、「次代へ繋ぐ持続可能なれんこん生産を目指して」をテーマに行われ、パネラーとして「（株）カワカミ蓮根」の川上氏、「（株）れんこん三兄弟」の宮本氏、「JAあいち海部」の大橋氏、「JA徳島県」の藤川氏、「（有）広中食品」の小玉氏を招き、全国的な産地連携の可能性など活発な議論が交わされました。

休憩時には、茨城県、山口県、愛知県、熊本県そして徳島県の各産地のれんこん食べくらべを行い、各産地のれんこんの違いを参加者全員で楽しみました。

29日の現地視察では、県外の関係者らを対象に腐敗病防止対策のための太陽熱消毒処理圃場およびれんこん掘り取り圃場にて研修を行い、本県のれんこん生産における特徴的な技術を見学いただきました。

サミットを通して他産地の生産者と交流を行い、新たな情報や客観的意見に触れることで、産地の将来を考える良いきっかけとなりました。



※無断転載厳禁

徳島県公式LINE友だち募集中

日常生活に密着した県政情報やイベントのお知らせ等を随時配信し、災害時は、安全の確保に直結する緊急・防災情報を配信しています。

登録はコチラ→



「梨経営改善勉強会」を開催しました！

令和8年6月22日（月）、月見ヶ丘海浜公園研修室にて、「梨経営勉強会」を開催しました。

産地維持に向けた技術支援が進む一方、規模拡大に伴う経営術や事業承継などの経営面が大きな課題となっているため、講師に（株）ファームサイド佐川氏をお招きしました。

勉強会では、経営面の課題解決のヒントを学ぶべく、講演やグループディスカッションが行われました。まずは「小さな改善」から着手し、改善の習慣や思考力を鍛える大切さを学ぶことができ、有意義な勉強会となりました。



※無断転載厳禁



熱中症に気をつけましょう！

今年の8月～9月は、平年より気温が高くなることが予想されています。今年度においてはすでに熱中症による死者が発生しており、今後もさらなる警戒が必要です。これからの時期は特に炎天下での作業になるため、こまめな休憩をとりましょう！

農作業で心がけること

- ・日中の気温が高い時間帯を外して作業を行いましょう。
- ・のどが乾いていなくても、**20分おきにコップ1~2杯以上の水分補給**をしましょう。
- ・休憩時は日陰で作業着を脱ぐなど、できるだけ涼しくしましょう。
- ・単独作業を避け、**2人以上の作業や時間交代制**などで互いに体調を確認しましょう。
- ・ビニールハウスは特に熱がこもりやすいので、風通しを良くして作業しましょう。
- ・めまい、吐き気、頭痛、手足のしびれや体のだるさなど、**少しでも体調不良を感じたときはすぐに作業を中断**して、体を冷やす、水分補給をするなどの応急処置を行いましょう。

熱中症予防で最も大事なことは、無理をしないことです。特に70歳以上の方は暑さやのどの乾きを感じづらく、死亡数も全体の9割弱を占めています。少しでも体に違和感を感じたらすぐに休み、のどが乾いていなくてもこまめに水分補給をして、熱中症にならないようにしましょう！

8月・9月の栽培管理

水稻

中干し後は間断かん水を行い、草勢の維持に努めましょう。

出穂前後2週間程度は、水を切らさない管理が必要です。

また、収穫前の早期落水は、品質・収量低下を招くので気を付けてください。

いもち病や斑点米の原因であるカメムシ類に注意しましょう。

カメムシ類の耕種防除として、生息場所となる畦畔の草刈りが有効ですが、出穂の10～15日前までに終わらせましょう（出穂直前の除草は、カメムシ類をほ場内に呼び込むことになるため行わないでください。）。

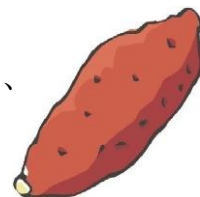
籾の85%が熟れた頃が刈り取り適期です。刈り遅れると品質が落ちるので注意しましょう。



かんしょ

夏期は、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウ、ナカジロシタバなどの発生が見られるようになります。害虫の発生が多くなると防除効果が低下するので、早めに薬剤で防除を行ってください。

プレバソンプロアブルやフェニックス顆粒水和剤だけを使用するのではなく、ディアナSCやアフーム乳剤などタイプが違う薬剤も使用してください。



れんこん

収穫前に落水するまでは、水を切らさないように管理しましょう。

落水は収穫の5日から10日前に行います。

茎葉が緑色の時期に収穫する時は、収穫7～10日前に茎葉を押し倒すか、刈り取ると、呼吸が抑制され、れんこん表皮の褐変（赤シブ、酸化鉄の付着）が低減されます。

すじ掘りは、0.8～1mを残し、4mを掘ります。

腐敗病多発田では、収穫後常時湛水しましょう。



にんじん 堆肥を施し、土づくりを行いましょぅ！！

堆肥は、微生物のエサとなり、土壌の団粒構造の形成が促進されることにより、土壌の、透水性・保水性・保肥力が向上し、根に活力を与えます。

※堆肥の腐熟具合にもよりますが、最低でも播種の1ヶ月程度前に施すことを心がけましょう。また、堆肥等の有機資材を施用することで減肥が可能となります。

（牛ふんオガくず堆肥1tあたり窒素2kg・リン酸3kg・カリ3kg・を節減可能）

土壌中の養分バランスを崩さないためにも、積極的に土壌分析を実施し、適切な土壌改良及び施肥を行いましょぅ。



ブロッコリー・カリフラワー（育苗管理について）

苗立てのセルトレイは200穴または128穴を使用し、育苗培土は与作N-150、愛菜2号等を利用しましょう。

セルトレイは、生育むらや病原菌の感染を防ぐため、直接地面に置かないようにしましょう。

高温時の育苗は、は種後乾燥防止のため不織布等でべたがけを行い、発芽後は徒長させないように直ちに取り除きましょう。

晴天日の日中は、寒冷紗（白、シルバー等）で遮光しましょう。

かん水は徒長防止のために、朝十分行いましょう。

根こぶ病の多発ほ場に定植予定の場合は、根こぶ病にはオラクル顆粒水和剤やランマンフロアブル等をトレイ灌注しましょう。

チョウ目害虫防除のため、定植3～5日前にプレバソン等の登録薬剤をトレイ灌注しましょう。



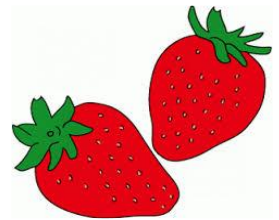
いちご

<育苗管理>

定植までは、高温対策として育苗床の風通しを図り、鉢間隔を広めにとります。雨よけ育苗等では、フィルムの上から寒冷紗を被覆するなどしてハウス内温度を下げます。

病害虫では、炭そ病、うどんこ病、ハダニ類等の防除に努め、健全な苗が定植できるようにします。罹病株や切り離し後の親株は、ただちに処分しましょう。

8月下旬以降の花芽分化誘導期には、体内窒素濃度が低くなるように管理します。さらに、芯止まりの発生を防ぐため、様子をみながら微量要素を含んだ肥料を葉面散布します。



<本ばの管理>

※必ず花芽分化を確認（花芽検鏡）した苗群を定植するようにしましょう。

土耕では、完熟堆肥等を施用した土づくりや土壤消毒を行います。

高設では、根群の発達を促すため、培地をまんべんなく湿らせてからマルチをします。

定植後2週間は葉水散水や少量多かん水により活着を促します。

病害虫では、うどんこ病、ハダニ類、アザミウマ類などの開花期までに徹底防除しましょう。

かき

乾燥が続く場合は、かん水を行いましょう。

「炭疽病」は降雨で感染します。台風や大雨で多発するため、降雨前後はしっかりと防除しましょう。

枝病斑から孢子が形成されるので、見つけ次第、切り取って園外に持ち出し処分しましょう。

カメムシの発生に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

カキは風に弱く、台風に遭遇すると落葉、果実のすれ、枝折れ、樹の倒伏の発生が予想されます。防風ネットを設けるなど、事前対策をしっかりと行いましょう。

園地を見回り、日焼け果や擦れ果などの商品性の低い果実は早めに摘果しましょう。

